

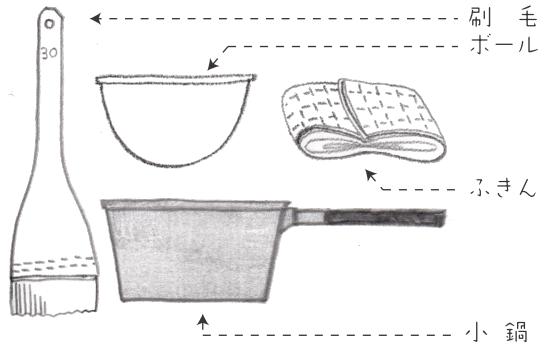
NIKAWA

GLUE FOR BOX & PAPER

紙用接着剤のニカワのご家庭用パックです。
ニカワはコラーゲンが母体(豚の骨や皮が原料)の天然の接着剤であり肌にもやさしく環境に考慮した自然に還る無公害接着剤です。
使用法はニカワに熱を加えて溶かし、刷毛で塗り広げて使用します。
ニカワは熱を加えると溶ける性質から貼った紙をはがせて歪みを整え、シワを取り除くことができます。
常温になるとゲル状に固まり、紙の強度を高め箱に張りがです。
ニカワは、綺麗な箱づくりにはかせない最も紙に適した接着剤です。

TOOL

◎ 必要な道具を用意します。



about NIKAWA

- ニカワは直火の鍋で温める事も出来ませんが、焦げやすいため湯煎をおすすめします。
- 貼った直後は剥がす事が出来るため、歪みなどを整えることが出来ます。
- 紙に染み込まず、変色しません。(薄い紙は染み込むので、試し塗りをしてから塗る事。)
- 時間が経ってから剥離する場合は、熱と水分(沸騰したお湯の蒸気が◎)を同時に当てると綺麗に剥離出来ます。熱だけで剥離すると、粘着が落ちますが、アイロンをあてると成形された箱の紙の浮きなどは取り除く事が出来ます。

POINT

- 貼箱と芯材の間のクッションになるのがニカワの役割です。塗布量を絞り過ぎると適切なクッションが作られない為、対湿熱性が弱く浮きが生じ、弱い箱になるのをご注意下さい。
- 手早く貼る事が重要です。塗布後、1分半以内目安に張り合わせて下さい。
- 刷毛は動物性の毛(粘度が高いため刷毛の毛が抜けやすい)の幅広いものを使用すると、ムラなく均一に塗る事が出来ます。
- ニカワが紙の表面などに付着した場合は、濡れた布巾(出来れば熱い布巾)で拭き取る事が出来ます。手に付着したニカワは必ず布巾で拭き、紙を綺麗な状態に保ちます。

KEEP

- 密封パックは常温で約1年間保管出来ます。半年くらいを過ぎると粘度が落ち始めるので、早めに使い切りましょう。
- 一度水分を入れて溶かしたものは、ラップをして冷蔵庫で保管します。1週間を目安に使い切りましょう。
- 使わないニカワはラップに包み常温で保管

CAUTION!

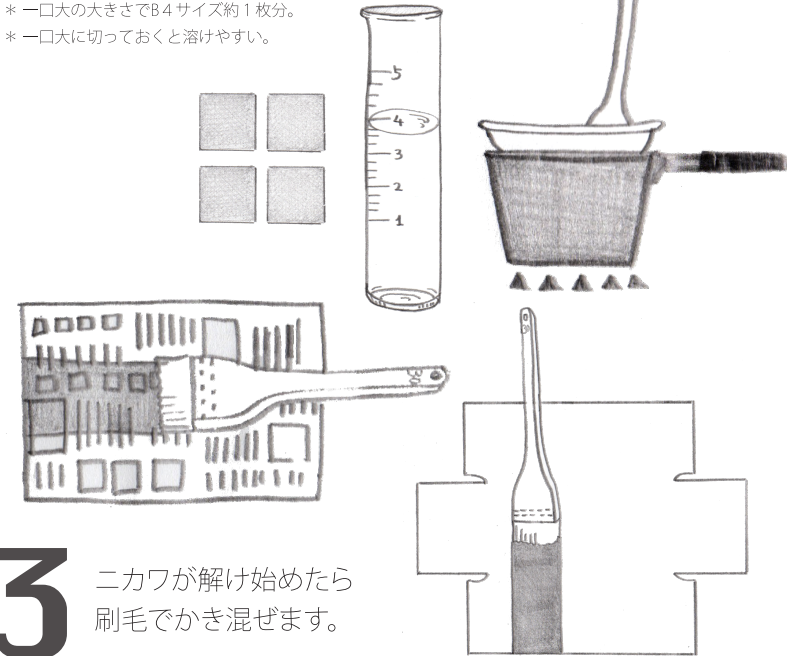
- ニカワは天然の接着剤ですが、食用には製造していません。食品と間違いないので誤食されぬよう保管には十分ご注意ください。
- 肌に着しても無害です。水やお湯で洗い落とし下さい。
- 火気と熱湯の取り扱いには十分注意し、広いスペースを設けて作業して下さい。

HOW TO USE

1

ニカワ液をつくります。

- *使用する分だけニカワをハサミで切り出します。ニカワ4に対して水は1の割合でニカワ液をつくります。
- *一口大の大きさをB4サイズ約1枚分。
- *一口大に切っておくと溶けやすい。



3

ニカワが解け始めたら刷毛でかき混ぜます。

- *水を加えたニカワは、40℃から解け始め塗布には50~60℃が最適です。
- *ニカワは75℃以上になると粘着が落ちるので、沸騰させないようにします。
- *固まりが完全に溶け、滑らかになったら新聞紙に試し塗りをし、塗布面を指先で触って粘度を確認します。
- *ニカワは熱いので触る時は注意下さい。
- *気温・湿度により状態が変化する為、伸びにくい場合は温水で少しずつ調節します。

2

ボールにニカワと水をいれ湯煎にかけます。

- *目の粗い紙(手漉きや壁紙等)に貼る場合は、紙に水分が入りやすいので少し濃いめのニカワ液にします。
- *気温や湿度によって水分量は変わるので、使用する度に調整します。鍋にボールをいれて、底がお湯にひたる高さを確認します。
- *湯煎の温度は80℃を、直火の場合は75℃を超えないようにします。直火にかける事もできますが焦げやすいので初めての方には湯煎をおすすめします。

4

刷毛で紙に塗布します。

- *ニカワ液は薄く均一に、手早く塗る事がきれいな箱に仕上げるコツです。
- *長時間使用する場合は、温度の変化に気をつけながら使用しましょう。